

◆友の会連載「世相裏表」2024年1月号原稿

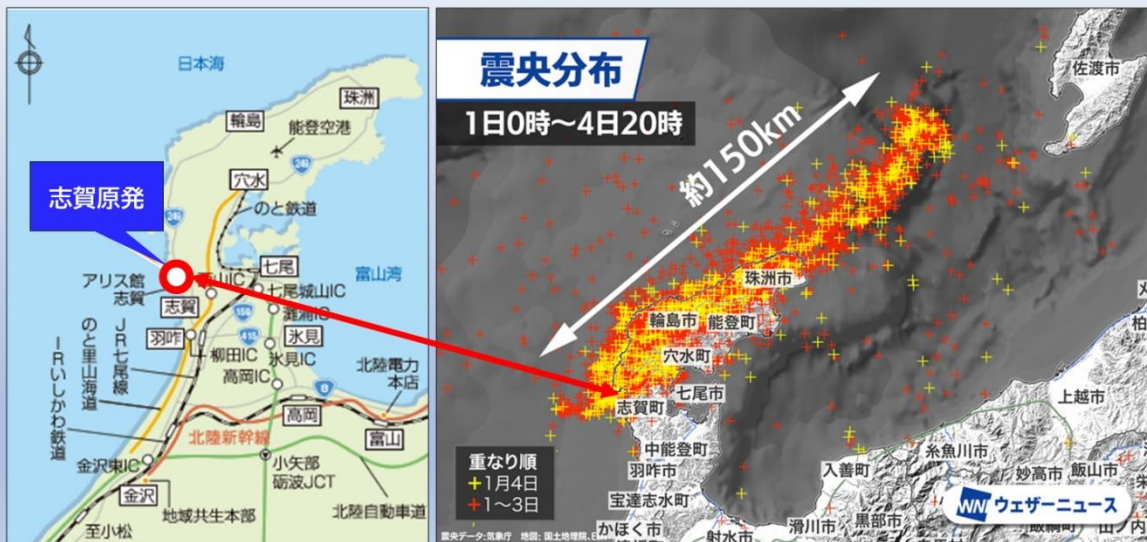
心配な能登半島地震による志賀原発の異常

安齋育郎

2024年の年明けは、能登半島地震と航空機衝突事故の不穏な幕開けになりました。原子力問題が専門である筆者には、両方とも「想定外のことは起こり得る」ことを示すもう一つの事例として、とりわけ石川県の志賀原発の安全性が心配になりました。

志賀原発の敷地内にはいくつもの断層が走っていることはよく知られていますが、それらが「活断層」かどうかをめぐって争われてきました。今回の地震が、能登半島北東部の150kmに及ぶ断層が次から次へと伝播するように破壊を起こしたことにより、志賀原発敷地内の断層を含めて刺激を受け、これまでとは違う断層運動のフェーズに入るのではないかと、心配でなりません。

## 能登半島地震と志賀原発への影響



地震の揺れの大きさは科学的には「ガル」という単位であらわされる「加速度」で表現されます。ガリレオ・ガリレイの名に由来する単位ですが、地震動の揺れに限って使われる特別な加速度の単位です。今までじっとしていた地点が、急に「毎秒1m (= 100cm)」の速さで動き出したら「100ガル」です。今回の能登半島地震の最大加速度は、原発のある石川県志賀町の観測点で、2011年3月11日の東日本大震災に匹敵する2,828ガルだったことようです。防災科学技術研究所によると、石川県志賀町の観測点で、東日本大震災の最大加速度(2,933ガル)に近い2,828ガルを記録、輪島市や珠洲市、穴水町など計7地点で1000ガル以上だったと発表されています。同研究所の青井真・地震津波火山ネットワークセンター長は、これほど広い範囲で1,000ガル以上の加速が観測される地震は非常に珍しい」と説明し、「約150kmもの広範囲の断層がずれ動く大規模な地震だった

ことや、地盤の弱さも影響したと考えられる」ということで、ますます志賀原発が大丈夫なのか、心配になります。にもかかわらず、北陸電力の発表では、志賀原発1号機原子炉建屋地下2階で399.3ガルだったという報告で、「1000ガルの基準地震動から見れば余裕」という印象でした。地震の影響は加速度だけでなく、揺れの周期も重要な要素であることは承知していますが、周辺に比べてずいぶん小さな揺れだったという印象が一人歩きするのは危険です。

1,000ガルを下回る揺れだった割には、原発内ではかなり深刻な被害が出たのは大変意外でした。使用済み燃料プールの水が大量に溢れ、冷却ポンプが一時停止し、複数の変圧器付近で配管の破損による大量の油漏れがあり、その影響で外部電源の一部系統が使用不能になるなどの異常が発生したのです。変圧器からの油漏れについても、北陸電力は1月5日には、志賀原発2号機の変圧器から漏れた絶縁油の量は約3,500リットルということでしたが、後に実際には約1万9,800リットルだったと訂正されました。

志賀原発は停止中だったのですが、こうした異常の結果として環境放射能に異常があったかどうかは一応気になるところです。当初は、モニタリング・ポストでは異常な放射能漏れは観測されていないと発表されましたので、いっとき安堵したのも束の間、1月4日になって、原発の北15キロ以上離れたところのモニタリング・ポスト14カ所でデータが確認できていないことが発表されました。こうなると、その他の場所のモニタリング・データが信用できるのかも心配になります。もしも大事故が起こった時に、原発周辺のモニタリング・データが得られなかったり、正常に機能しなかったりしたら、大変なことです。

また、原発の敷地内でも、1号機の原子炉建屋付近や海側エリアなどで最大35cmの段差やコンクリートの沈下などがあったということが1月5日になってから発表されましたが、事故発生時に道路に段差があったり大きな亀裂があったりしたら、消防や救急の活動に支障が生じたりしますので、これはこれで深刻な事態です。産業技術総合研究所の調査によると、輪島市門前町鹿磯周辺では最大4mの隆起が確認されたということで、「数千年に1度」の事象が起こったということのようです。地震活動はまだ続いており、侮ってはいけません。

こうした推移を見ていると、私が2011年3月11日の夕方の共同通信の電話インタビューで、「原発を進めてきた人たちに言いたいことはないですか？」と問われて、咄嗟に「隠すな、ウソつくな、過小評価するな」と言ったのは、意味があることだったと今になってつくづく思います。今回の災害報道でも、原発で起きている異常についての報道は殆どありませんでした。余震や津波の情報が重要であることは確かですが、福島原発事故の経験を想起すれば、原発の情報もまた負けず劣らず重要です。林芳正官房長官が記者会見で、「現時点で異常なし」と発言した直後、記者との質疑応答の中で突然「変圧器で火災が発生した」と「エッ？」と驚くような話をして、あわてて「すでに消火」と言い添えましたが、変圧器で火災が起きて外部電源が一部遮断されたという事態なら極めて深刻な異常でしょう。北陸電力は、「爆発音と焦げ臭いにおいがしたこと」や「スプリンクラーが作動して水浸しになったこと」は認めましたが、「火災はなかった」と主張しています。

年初から心配な事態ですが、人間が自らの技術的達成を過大評価し、自然の脅威や技術の

欠陥を過小評価するとき、そのしっぺ返しは時にとんでもないことになり得ることを改めて考えるべきでしょう。